



伊豆市

# 議会だより

No.17

発行：伊豆市議会 <http://www.city.izu.shizuoka.jp> 編集：議会報編集特別委員会  
〒410-3292 静岡県伊豆市市山550 TEL 0558-85-2606 2008.8.1 発行



紙切り作家 水口千令さん(修善寺在住)による作品 あなたを待つ修善寺で  
この作品は、市長室に市内のオリジナル商品を展示したいという菊地市長の提案にこたえ、寄贈されたものです。

## 目次 CONTENTS

6月議会の概要 .....	2
委員会審議 .....	3
一般質問 .....	4
傍聴アンケート .....	10
意見書 .....	11
委員会活動 .....	12
9月議会予定 .....	14

# 菊地豊新市長 初の所信表明

## 傍聴席は満席となりました



平成20年  
第2回臨時会  
6月定例会

平成20年第2回臨時会が5月8日に、第2回定例会が6月5日から6月19日までの15日間の会期で開かれました。臨時会の議案では、補正予算1件、条例の一部改正1件、専決処分<sup>注</sup>の報告1件。その他、任期満了に伴う選挙管理委員及び補充員の選挙が行われました。定例会では、補正予算2件、条例の一部改正3件、条例の制定2件、意見書4件が上程されました。審議の結果、議案等すべて原案のとおり可決となりました。

### 第2回臨時会

4月の市議会議員補欠選挙で、西島信也氏（福祉文教）、松本覚氏（土木水道）、森島吉文氏（総務）、稲葉紀男氏（福祉文教）の4名が当選されたことにより、議席の一部変更と議席指定が行われ、4議員の所属常任委員会が（ ）内のとおり決定しました。

また、伊豆市選挙管理委員及び同委員補充員の選挙が行われ、次の方々が当選されました。

◆選挙管理委員 ※敬称略

長倉伊豆枝（瓜生野）

登木口孝雄（土肥）

鈴木 延尚（雲金）

佐藤 央一（原保）

◆選挙管理委員補充員 ※敬称略

川口嘉明（八幡）、谷口房太郎

### 6月定例会

（大沢）、永岡英章（八木沢）、浅田正孝（湯ヶ島）



所信表明をする  
菊地市長

6月5日の初日は、菊地市長の初の所信表明（広報いず7月号に掲載）が行われることから、伊豆市議会最多の45名の傍聴者があり、新市長の市政への取り組みに対して市民の関心が高いことが伺えました。

## 議案のピックアップ

◆伊豆市国民健康保険条例の一部改正

地方税法の改正に基づく賦課限度額の改正、後期高齢者医療保険への加入に伴う特定世帯に対する税額の規定等を追加するものです。

◆平成20年度伊豆市一般会計補正予算（第1回）

歳入では、県民税徴収委託金・権限移譲交付金・地方債・繰越金の補正です。

歳出では、総務費の市民税還付金・防犯協会負担金・旅券事務事業と、災害復旧費の修善寺グラウンド法面（のりめん）復旧工事、諸支出金の印紙等購買基金繰出金で、歳入・歳出それぞれ5422万円を追加する内容です。

◆平成20年度伊豆市下水道事業特別会計補正予算（第1回）

沖ノ原中継ポンプ場と土肥浄化センター改築更新工事に伴う、債務負担行為の補正です。限度額を4億6100万円とするものです。

# 議案チェック

委員会の議案審査で  
次のような審議がありました

## 総務委員会

### ◆徴税費の過誤納還付金

**問** 徴税費の過誤納還付金の増額は、ある程度の予想ができたということだが、何か処置はできなかったのか。

**答** 今回の補正は、住民税の在住者の還付分です。19年の所得が確定した段階で精査したところ、当初予算の見込みよりかなり増額となることから、今回の補正となりました。

申告制ですので、7月中旬に申告をしていただくよう、対象者の全員に通知をします。



## 福祉文教委員会

### ◆修善寺グラウンドの災害復旧

**問** 今回の災害で崩れなかった法面は、一緒に工事ができないか。

**答** 災害復旧工事というのは、災害箇所しかできません。

**問** 他の法面も危険箇所があるようなので安全点検が必要ではないか。

**答** 土質などボーリング調査することも検討したいと思えます。

### ◆食育推進会議条例の制定

**問** 委員にはどのような人を選任する予定か。

**答** PTA、教育委員会、市民の代表、食品衛生協会、食生活推進協議会、保健委員、民生委員、農業関係、保健所関係、行政関係者等考えています。

**問** 市民の代表の公募の仕方は。

**答** 広報等で募集し、肩書きや経歴がなくても、熱意を確認できる方であればよいと思います。

**問** 伊豆市ならではの食育推進計画の柱はあるか。

**答** 『楽しく食べて心身ともに元気に生きる』ことを大きな柱とし、

「朝食摂取」と「地産地消」を小さなテーマとして、今年中に計画を策定したいと思えます。

## 土木水道委員会

### ◆下水道事業の債務負担行為

**問** 債務負担行為をとらなかつた場合、どのような弊害があるのか。また、今年度の機械設備との関係はどうか。

**答** 工事工程を精査したところ、機械設備の工場製作が年度内に終了できず、今年度計画している中央監視盤の更新工事と同時施工ができないこととなります。

### ※注の用語解説

債務負担行為とは、建設工事やリースなどのように、複数年度にまたがって行う事業などについて、当該年度に施工業者等と契約を行い、その支払いは将来にわたって行うことを約束している場合に設定され、その行為をすることのできる事項、期間および限度額を定めて、その予算の内容として、議会の議決を経ることになっていま

す。  
しかし、歳出予算には含まれません。

## 岩手・宮城内陸地震に 義援金

伊豆市議会は6月24日、市役所で、日本赤十字社県支部伊豆市地区長の菊地豊市長に、岩手・宮城内陸地震被災者への義援金13万円を寄託しました。



菊地市長に義援金を手渡す堀江議長  
三須副議長（左）、杉山莞央議運委員長

# 市政を問う

## ～ 一般質問 ～

6月定例会での一般質問は、6月17日、18日の2日間に、18名の議員が50件について行いました。質問と答弁を要約してお知らせします。(登壇順)

### 質問

**一層の環境整備を目指し水  
洗化率100%達成を**

(木内一郎議員)

現在、水洗化率は、およそ80%程度と思われるが、雑排水未処理人口、及び非水洗化人口は依然として多く残っている。一層の環境整備、衛生面を考慮して、水洗化率100%を達成したい。どのように未処理人口を誘導してきたか。

また、今後どのように誘導していく予定か、市長の見解を伺う。

### 市長 答

**水洗化率の向上に努力**

伊豆市における水洗化率は、平成20年4月1日現在86%です。未接続世帯へは、市報、地区回覧等で接続を要請しています。

今後は、関連業者に周知するとともに、引き続き住民の皆さんに要請を続けていきたいと思えます。可能であれば、未接続の理由や、障害についてアンケート調査を実施し、市役所職員が戸別訪問させていただき、きれいな清流を取り戻す努力を続けていきたいと考えています。

### 質問

**伊豆市港湾整備事業につい  
て**

(鍵山堅一議員)

委員会も立ち上げ5回ほど会議を開き、進展のないまま1年以上も途絶えているが、その後どうなっているのか。市長所信表明の一部で抽象的ではあったが、「整備充実をなるべく早い段階から議論を進めたい」とのことだったが、具体的にこれからどう取り組み、進めていくのか。

### 市長 答

**海の玄関口として  
整備充実を図る**

来年3月の富士山静岡空港の開港は大きなチャンスですので、伊豆半島の海の玄関口として、半島全域の総合案内所や港湾施設の整備充実を図ります。

また、土肥港から市街地を結ぶ親水プロムナードの整備や観光客と地元住民とのにぎわいの場として、最大限活用できるような構想を進めていきます。

また、災害時の救援物資や観光客の避難経路として大変有用なので、早期着工を目指します。既に県当局に要望して来ました。



清水港と土肥港を結ぶ駿河湾フェリー

質問

子どもたちの携帯電話の利  
用について  
(室野英子議員)

子どもたちの携帯電話の所持率が高くなり、いろいろ事件が起きています。書き込みなどによるいじめ等、大人の把握しにくい部分も多くあります。メールを夜中までやっている現状もあるようです。子どもを守るため、力を合わせる必要がありますが、所見を伺います。



長弁  
市答  
情報を正しく、  
安全に使う指導を

昨年、教育委員会で行った調査の結果、携帯電話の所持率は、小学5・6年生で13%、中学1年生で30%、2年生で50%、3年生で57%です。

今年、伊豆市青少年問題協議会のテーマとして挙げていただき、11月の青少年育成大会の場で何らかの宣言か提言をいただくよう考えています。

質問

支所の有効利用について  
(飯田正志議員)

今、各支所に空いたスペースや各種施設があると思います。これらのお効利用をどのようにお考えになるのかお聞かせ願いたい。それと、積極的に、支所への誘致を進めて行く考えはないのか、お伺い致します。



土肥支所の外観

長弁  
市答  
積極的に検討

今後は、施設の管理区分を整理し、各種の公共団体、ボランティアやまちづくりグループなどの比較的公的な仕事をしている方々に、広く使っていただけるような方向で検討していきたいと思っています。

倉庫等の施設は、少し整理をしながら、倉庫として使い続けるか、売却して民間で使っていた方がいいのか、検討しているところです。

質問

子どもの医療費負担の軽減  
を  
(杉山 誠議員)

伊豆市における少子化が著しく進行している。安心して子供を産み育てられる環境づくりは、行政の責任で取り組むべき最優先課題であると思うが、子どもにかかる医療費に対する助成制度は、各自自治体で違い、その格差が急激に広がっている。早急な検討が求められるかがか。

長弁  
市答  
小学校6年生まで拡大

子供の医療については、伊豆市の現行制度、乳幼児医療費の自己負担分の500円を除いた額を市から助成する制度を、来年4月から、対象を小学校6年生までに拡大したいと考えています。なお、所得制限ははずしています。

国民が、高負担高福祉を選択していない今、500円の負担は、維持していきたいと考えます。

乳幼児医療費

就学前まで  
↓  
6年生まで

将来、国や県が子育て支援策の全体像を整理再検討する事があれば、その中で無料化が可能かどうか考えて行きたいと考えます。

質問

想定される東海地震に関して  
(大川 孝議員)

震災対策は、国、県、そして市それぞれが実施しているところですが、昨今の内外の被災状況に鑑みますと、地形的に似通っている当地にとっても他人事ではありません。特に、水の確保は被災直後から重要課題となります。水源地の要塞化が急務と思われませんが、危機管理者としての対策を、お伺いします。



市長 市答

地域コミュニティの強化

岩手・宮城内陸地震では、林道の大規模な崩落、旅館への土砂直撃等、伊豆でも十分想定される被害があります。自衛隊、消防と常に緊密な連携を構築し、自主防を実動できる体制にしておくことが大切だと思います。耐震補強と家具の固定が一番効果がありますが、金銭負担が大きいのであまり進んでいません。これからも推進したいので研究したいと思っています。市民の皆様も、ご自身で準備をお願いいたします。地域コミュニティの強化も進めたいと思います。

質問

嫁不足と少子化について  
(内田勝行議員)

嫁不足と少子化は密接に関わっています。国勢調査資料による未婚率、未婚者数は驚くべき数字です。この状況をどう認識し、またどのような対策を講じて行くのか。

伊豆市の年齢別未婚率・未婚者数統計  
(平成17年国勢調査)

年齢 (歳)	未婚率 (%)		未婚者数 (人)	
	男	女	男	女
20～24	92.6	88.6	626	609
25～29	76.8	65.6	621	548
30～34	55.7	41.5	576	393
35～39	41.3	27.0	405	294

市長 市答

今後、あらゆる手段を講じていく

25歳から39歳の範囲で見ると、未婚の男性1600人、女性1200人となっています。外からの人口誘致もさることながら、既に伊豆市に住んでいる未婚の人達に結婚してもらい、人口増を見込むことも大変重要だと思います。子育て支援と住み良いまちづくり、そしてふれあいパーティーの活性化を含め、該当する世代の皆様と夢を与え、結婚志向を高めてもらいたいと考えています。

質問

治山治水のための私有林等の整備について  
(稲葉紀男議員)

荒れた私有林の整備のため、県民税を財源にした(地権者の負担金は無い)県の「森の力再生事業」がありますが、伊豆市ではこれをどのように進めていますか。また、中山間地域に多数ある「がけ崩れ注意、危険箇所」や「土石流危険渓流」の一つ一つの場所の整備を何時行うか等の具体的な計画はありますか。

市長 市答

森の力再生事業や災害防止に力を入れる

【森の力再生事業】を利用した整備は、過去2年間で129ha、約1億3000万円となっています。その内、風倒木被害は18ha、3500万円の事業費となっています。市としては、風倒木被害林等の森林所有者を対象に、県からの事業者紹介文を個々に送付しています。砂防堰堤や急傾斜地崩落対策等の整備も、国、県、市独自で随時実施しています。降雨量が増えたときや、台風、地震は予知できませんが、ソフト面での対策についても検討します。広報8月号で本事業を紹介する予定です。

質問

**行革を後退させない支所機能**  
 (小野忠宏議員)

合併後、支所機能はその地域における窓口業務と調査活動の2点にしぼるべく、逐次縮小してきました。

これに対して市長は所信表明で「各支所に一定の権限と予算を付与したい」という方向転換を表明しました。行政改革を後退させないかと心配します。市長の所見を伺います。

市長  
市答

**支所機能の改善を検討**

支所機能について、多くの市民から合併して不便になったとの声を聞きます。

市民生活に一番直結した市の行政のあり方として、通常の市民生活に必要な程度の手続きは、支所で事足りるよう工夫したいと思っています。窓口業務のほか、区長などからの軽易な作業要求など、支所で出来ないか検討しています。

先入観と、固定観念なしに、旧町の境界にこだわらずに、支所のあり方を考えていきたいと思っています。

質問

**有害鳥獣ハンターの育成について**  
 (西島信也議員)

シカ、イノシシ等の有害獣の農作物被害は、ますます増加している。有害獣の捕獲は、主として猟友会が行っているが、猟友会会員個人の経費負担を、今後どのように考えるか。

有害鳥獣捕獲は、高齢化が進む民間の猟友会に頼りっぱなしではなく、行政が若手ハンターの養成を図ってはいかがか。

市長  
市答

**現状では猟銃免許取得は難しい**

猟友会へ報償金を払っていますが、弾代やガンリン代を賄える額ではないので、ハンターの負担は大きいと思います。今後、鳥獣による被害防止のための特別措置法に基づき、市の被害防止計画を作成し、交付税措置を受け、実施したいと考えています。

ハンターの養成については、現状では猟銃免許取得が厳格化されており、難しいと思います。むしろ囲いわなを試行し、有効性の検証を実施していきたいと考えています。



一斉捕獲の打合せの様子

質問

**廃食油リサイクルと菜の花の栽培について**  
 (古見梅子議員)

学校給食で利用した後の廃食油を軽油代替燃料にリサイクルし、市バスに試験的に利用した結果はどうでしたか。

今後、資源としての廃食油回収の取り組みを推進したらどうか。

また、菜の花栽培を観光資源として、遊休農地などを利用し推進できないか、伺います。

市長  
市答

**具体化を前提に調査研究に着手**

廃食油のリサイクル活用について、今後拡大したいと思っています。現に旅館やホテルなどでは、特定の業者さんに引き取ってもらっている所もあるようです。

個々の家庭の廃食油については、具体化を前提に、調査をしていきたいと思っています。

遊休農地での菜の花栽培は、市内の一部の地域で実施されています。伊豆の遊休地は、山間部が多く、機械化が困難です。これをビジネス化するには障害が多く、現状では生産コストと販売価格の釣り合いがとれていません。その障害を排除するための検討を要するという気がしています。

**質問**  
**矢熊筏場線、改良計画の推進について**  
(杉山晃史議員)

田方消防南署の完成に伴い天城支署、中伊豆支署が廃止され、緊急車両の遅延が大きな問題となってきた。矢熊筏場線を伊豆横断道路の一部路線という重要な位置付けと共に、生活緊急道路として、天城北道路の早期完成と矢熊筏場線の同時期完成を目指して計画実行していくべきだと考えますが、所見を伺います。

**長弁 市答**  
**来年度以降、測量と設計に着手**

ご指摘のとおり、当該市道は重要な道路だと思っております。そして、船原から天城湯ヶ島インターへの接続が実現されれば、矢熊筏場線の有用度はさらに上がります。平成21年度には、大平アクセス道路が完了する予定です。矢熊筏場線が、国の補助事業となるように努力したいと思います。当該市道については、来年度以降、測量と設計に着手する予定となっております。

**質問**  
**八木沢・小下田簡易水道の市直営化について**  
(松本 覚議員)

両簡易水道の事業主は市、運営は組合となつていますが管理、水質に多くの問題を生じ、市直営化がスタートした。改善は緊急を要する事態になっている。以下3点について伺います。

- (1) 緊急事態の改善と今後の対応
- (2) 全体計画と進捗状況
- (3) 財源について、補助金、負債、一般会計、地元負担、料金は

**長弁 市答**  
**基本計画の策定を検討**

- (1) 緊急時を含めた管理については、本事業完了までは、現体制、従来どおり管理組合にお願いします。
- (2) 進捗状況は、昨年テストボーリングを実施、本年度本井戸を掘削し、揚水試験及び水質試験をし、その上で水質、水量の見通しが立てば今年度中に基本計画までいける見通しです。
- (3) 財源は、国と県の補助対象事業を精査していますが、その他については、市債と負担金になります。

**質問**  
**月ヶ瀬インターの観光客受け入れについて**  
(森島吉文議員)

伊豆縦貫道が十年後をめどに、月ヶ瀬インターが最終乗降口となり、大量の観光客が利用し、大きな経済効果が見込まれます。インター付近を、観光案内、地場産品販売、みやげ物販売、イベント広場などの場として求める声も聞かれます。市として月ヶ瀬インター付近に対し、予想計画などありましたら伺いたい。

**長弁 市答**  
**整備構想を策定中**

月ヶ瀬インター、いわゆる天城湯ヶ島インター付近の開発計画は承知していません。今後は天城湯ヶ島インターのみならず、大平インターも含め、将来の伊豆縦貫道を利用した振興策について、部局を横断的に検討していきたいと思っております。

また、場所によっても異なりますが、行政誘導型の開発か、民間活力の導入等、道路を活用した産業振興策の検討を進めていきたいと思っております。



国土交通省沼津河川国道事業ホームページより



質問

**土肥総合会館・ふじみ荘跡地活用について** (関 邦夫議員)

総合会館は売却の方向だが、伊豆市において海岸近くの市有地は少ない。観光客は駐車に困り路上駐車を余儀なくされている。土肥町では花時計の横を7億円で購入。土肥地域の活性化に役立てられないか。ふじみ荘は更地にする費用5000万円残す約束で廃業。地元の活性化に役立てられないか。

市長 市答

**特性を生かし有効活用を**

土肥総合会館は、立地の良さを生かし、地元と協議し、活用策を検討したいと考えています。

ふじみ荘については、売却の方針に変更はありませんが、富士山の見える良い場所なので、まちの活性化に結びつく公募ができれば良いと思います。



土肥総合会館の外観

質問

**企業誘致について** (加藤 章議員)

旧修善寺地区には、二つの私鉄駅があり、企業誘致・ベッドタウンとしてのまちづくりには最適の場所と考えますが、法に対しての対策はどう考えますか。

市長 市答

**市街化調整区域が規制緩和されるよう県に要望します**

修善寺地区の大半や牧之郷地区の大半も市街化調整区域に指定され、30年来見直しがされていません。活性化に必要な規制緩和を、強い姿勢で県にお願していきます。

また、本年4月から、都市計画法の開発行為等の許可の権限が県から市に移譲されました。遊休地の活用や、土地利用の推進並びに宅地供給による人口増加には、かなりの有効な手段と考えます。

可能な限り、弾力的な運用を図りたいと考えています。

質問

**焼却場建設用地仕切り直しについて** (三須重治議員)

撤退理由が地元の同意が得られなかったとのことだったが、堀切区も最初は反対者の方が多かったが、今は45戸のうち条件次第で賛成が31戸、地主8名も全員入っていると聞く。この数字は事実か。また、区民全体に撤退の説明をしていないと聞くが、今まで迷惑をかけた堀切区に対し失礼である。今から全員に説明すべきである。

市長 市答

**積極的に情報公開**

堀切区で、何人が反対で何人が賛成かについては、市として掌握していません。撤退の説明会については、堀切区全住民や、周辺の地区も含めて検討しましたが、過去の経緯で、市が主催する説明会に全員が出席する確率が低いということで、記者会見という方法をとりました。これは、準備会長である伊豆の国市長の同意も得た上で、メディアという手段で、伊豆、伊豆の国の両市民同時に、同じ情報を提供したということです。該当地区については、7月以降に実施しますタウンミーティングの中で、改めて経緯を説明し、真摯に謝罪とお礼を申し上げたいと思っています。

質問

小規模工事受注登録制度の導入を  
(木村建一議員)

市内の事業者の受注機会の拡大をはかり、市内経済の活性化に寄与するために、市が発注する小規模な工事及び修繕などのうち、少額で内容が軽易なものについて、受注を希望する人を登録する制度の導入を提案しますが、所見を伺います。

市長弁  
市答

導入に向け真剣に検討

現在、指名参加願いを提出していない事業者への発注は、小規模な改修工事や修繕工事、少額の物品購入など、関係法令を遵守し、随意契約の範囲内で発注していますが、受注登録制度は未整備です。  
市にとり、市内経済の活性化は極めて重要な問題であり、登録制度の導入に向けて真剣に検討する方向で考えています。  
商工会など、関係者の方とも意見交換を進めていきたいと思えます。

議会は  
いかがでしたか?



議会傍聴アンケート

6月定例会では64人の傍聴者がありました。議会報編集委員会では、一般質問のあった17、18日に『アンケート』をお願いし、18人の方から回答をいただきました。

Q. お住まいは?

修善寺地区 (1人) 土肥地区 (1人)  
天城湯ヶ島地区 (14人)  
中伊豆地区 (0人) 市外 (2人)

Q. 性別・年齢は?

男性 (7人) 女性 (11人)  
20代 (0人) 30代 (1人)  
40代 (0人) 50代 (3人)  
60代 (6人) 70以上 (8人)

Q. 議会傍聴にどのくらい来ていますか?

初めて (10人) ときどき (8人)

Q. 傍聴しようと思った理由は?

新聞で質問内容をみたので●新市長の市政取り組みを聞くため●市制がどのように動いているのか確認(行政を少しでも知りたい)●ボランティア活動の参考としたい

Q. 傍聴して感じたこと、気づいた点などをお書きください。

伊豆市全体に関わる質問を重点を絞って行うように●重複する質問が多い●財政が大変な時に、寄附条例の質問には関心を持った●審議時間が短い●もっと若さで地域のことを考え、これからもがんばってほしいと思った

Q. その他、ご意見

(伊豆市に何が重要か、議会への要望など) 学校統合については、今後も話題にして欲しい●また来て見たい●住みよい伊豆市にしてください●自立の求められる自治体。財政も厳しいようだが、新市長、議会、住民協力のもと、伊豆市の発展に尽力を期待。キラリと光る伊豆市を期待●伊豆市に対する議員の真剣な議論、そして、市長の意気を感じ、傍聴して良かった●一般事業所の考え方や業務運営方法を見習い改善できるよう、職員の意識改革が必要

6月定例会で意見書を採択し  
関係機関に提出しました。

# 意見書

## 森林・林業・木材関連産業政策と国有 林野事業の健全化を求める意見書

政府は、森林を適切に整備・保全する「美しい森林づくり」を推進するとして、官民一体の運動や間伐に取り組むとしていますが、森林整備に係わる予算措置が不透明であることや、地方自治体の財政難、森林所有者の負担など、実行体制の不備が危惧されることから、森林整備・保全や林業労働力確保に向けた諸施策の確立などを要望しました。

### 【提出先】

衆議院議長、参議院議長、  
内閣総理大臣、財務大臣、  
外務大臣、経済産業大臣、  
環境大臣、農林水産大臣、  
林野庁長官



## 一級河川の権限移譲に 関する意見書

一級河川狩野川は、天城山を源流に、伊豆半島を南から北に流れる河川ですが、古くから洪水の被害にさらされています。

政府の地方分権改革推進委員会の「第1次勧告」において、「一つの都道府県内で完結する一級水系内の一級河川の直轄区間については、原則として都道府県に移管する」とされていることは、地域の安全安心のために治水事業の推進を熱望する声に逆行するものであるため、国と地方の役割分担の見直しにあたり、国民の安全安心を確保するとともに、地域経済の安定を図るため、いままでと同様に国自ら管理者として責任を果たすことを強く要望しました。

### 【提出先】

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、  
内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、国土交通  
大臣、地方分権改革推進委員長

## 子宮頸がん予防ワクチンに 関する意見書

子宮頸がんの死亡率は高く、発症年齢が低いという特徴があります。発症年齢層のピークは年々低年齢化しており、20代、30代の若い女性の発症が急増しています。原因のほとんどが、ヒトパピローマウイルス（HPV）による感染であり、米国をはじめ80カ国以上の国で感染を予防するワクチンが承認され、「予防可能ながん」ということになりましたが、まだ日本ではこの予防ワクチンが承認されていないため、子宮頸がんの予防・早期発見のための取り組みを推進するよう要望しました。

### 【提出先】

内閣総理大臣、厚生労働大臣

## 携帯電話リサイクルの推進を 求める意見書

携帯電話には、リチウム、希土類、インジウム、金、銀など、有用資源が含まれていますが、使用済み携帯電話の回収実績は減少傾向が続いているため、適正な処理とレアメタルなどの高度なリサイクル技術の開発や循環利用のための社会システムの確立、ACアダプター等充電器の標準化や取り扱い説明書の簡略化等による省資源化を実現することなどを要望しました。

### 【提出先】

内閣総理大臣  
総務大臣  
経済産業大臣  
環境大臣



モバイル・リサイクル・ネットワーク  
携帯電話・PHSのリサイクルにご協力を。

# 委員会の活動報告



## 行財政改革特別委員会

平成19年9月より14回の委員会を開き、次の5項目について検討結果を報告しました。

### 1. 職員数の削減について

職員数の削減は、集中改革プランより早いペースで進んでいるが、これに対応する行政機構の見直しについては検討されていない。そこで、次の4点について答申した。

①組織のスリム化 ②評価システムを導入し、人材育成と組織のフラット化の見直し ③分庁形式を本庁形式にして、効率化を図る ④支所は迅速な対応と、地域振興を図るべく機能させる

### 2. 各種団体への補助金について

補助金は、事業を所管する部課並びに各常任委員会が、その成果や継続するか否かについて十分検証する必要がある。また、一律に縮減、廃止ではなく、市民の利益に役立つ活動には支援していく。

### 3. 市有地の遊休地活用と賃借料の基準価格について

市有の遊休地は売却処分を含め積極的に有効利用を図る。また、合併以前に賃貸借した土地は、価格が統一されていないが、既定の基準及び今後整備すべき基準に整合させるよう、早期に見直しを図る。

### 4. 議会報告会の実施について

20年10月の選挙より、議員数が20名となる。市民と議会の連携が希薄にならないために、議会報告と市民の意見をうかがう会を実施すべきである。

### 5. 審議会の情報公開について

市の各審議会の審議は、その過程についても公開する必要がある。

市長が代わり新しい伊豆市がスタートしましたが、まだまだ多く残っている懸案を解決し、行財政改革を実行されることを切望します。

## 総務常任委員会

6月12日、6月定例会で総務委員会に付託された議案審査の後、平成18年度より管理運営を指定した「修善寺虹の郷」の視察を行った。今回は特に、平成18・19年に市事業として予算6千万円を投じてこの程完成した「親水公園」を主目的に視察を行った。

親水公園「わんぱく水遊び公園」は、施設内カナダ村に新設され、地下200mから毎時4・8トンの自然水をポンプアップして24トンのタンクに貯水し、広さ220mの透水性のブロック舗装がされ、水が溜まらない。また、滑り防止が加工された広場に垂直型、アーチ型、放射型、12基の噴水やウォーターゲート、毎分130ℓの水がコンピュータ制御により15秒間隔10パターンで噴出す他、手押しポンプも設置されている。

この施設は、合併前に計画されたものだが、財政的な理由で工事が延々となっていたものである。

森と緑、自然の中で水しぶきを浴びながらの水遊び。特に夏に向かったのこれからの季節、子供達

に人気のスポットとして、期待ができる施設ではないだろうか。

虹の郷の理事長もチラシ13万枚を作成し、県東部地区の小学校、幼稚園、保育園を対象に誘客に努めたいと話していた。

松林、紅葉林、あじさい、花しょうぶ。森と花のコントラストが冴え、益々深みを増してゆく自然のさまを感じ、観光施設として、また、市民の憩いの場所として、なくてはならない施設としての感を受けた。



総務委員会による視察  
|| 虹の郷 親水公園で

観光経済常任委員会

観光経済委員会は4月23日に、「伊豆市の観光の現状及び課題」を調査テーマとし、伊豆市観光協会（小森泰信会長）の役員との話し合いを行いました。

1 伊豆市観光協会について

(1) 取組みの現状

取組み事業は、伊豆市観光協会としての事業ではなく、個々の特性を活かした各支部の活動に任せているのが現状である。

(2) 問題、課題

- 会員の成り立ちが各支部によって違い、会費、規約などの統一化が難しく進んでいない状況にある。
- 法人化（社団法人）を目標としている。法人となると銀行からの借入れもでき、自主事業も可能となる。

2 伊豆市の観光の課題等

- 踊り子号の乗車率が悪く、将来存続が危ぶまれている。それは観光にとって痛手となるので廃止しないよう働きかけが大事。
- 伊豆市の豊かな自然を生かした自然環境整備が必要。



観光経済委員 ↑、観光協会の役員 ↓



- 土肥は、日本一きれいな海を目指しているので、全国にPRを。
- 伊豆スカイラインと西伊豆スカイラインを結び新しい観光資源の発掘が必要。筏場・矢熊線の伊豆横断道等の整備。
- 静岡空港の開港により外国人の誘客のためには、受け入れ体制の課題がある。
- 行政と観光協会のさらなる話し合いの場が必要である。

伊豆市の豊富な観光資源を活用した、元氣な伊豆市となるよう、委員会としても今後も取り組んでまいります。

土木水道常任委員会

5月22日に当委員会は、所管となる平成20年度の伊豆市内の事業を把握するため、上下水道部・建設部、県沼津土木事務所の担当者より今年度事業の概要説明を受け、意見交換を行いました。

その結果、次の課題が上げられました。上水道事業関係では、八木沢・小下田地区以外にも市に移管したい地区があり、今後、事業費を検討する上にも水道料金統一と料金設定をどれくらいにするのか、早急に結論づけたい重要課題です。

下水道事業については、中伊豆上地区、湯ヶ島地区など現況の下水道区域を延ばしていくことにするのか、他の方法に切り替えるのか。これも喫緊の課題です。建設部関係では、市民の安全・安心を確保するための事業や道路整備等のインフラ整備事業などの投資効果をしっかりと見極め、無駄のない予算執行を図るべきです。

また、県沼津土木事務所からは、事業費約14億7500万円の道路・河川・砂防・急傾斜地事業につ

いての事業概要および沼津インターチェンジ周辺道路、国道136号・414号整備の説明を受け、そして意見交換を行いました。

6月13日には、当該事業箇所の現地調査を実施しました。土肥地区は、八木沢・小下田簡易水道本井戸掘削箇所、浄化センター、土肥港整備、中村貯湯槽を調査。

湯ヶ島地区は県道天城修善寺線矢熊工区・市道柿木線改良工事を、修善寺地区は市道大平アクセス線改良工事を、中伊豆地区は県営一般農道整備事業、市道上和田線改良工事と八幡配水池築造工事の現地調査を実施しました。

以上の調査等の結果を踏まえ、今後の審議に臨んでまいります。



市道柿木線改良工事視察＝柿木橋工事現場で



「伊豆温泉所在5都市議会議長会」の  
発足理由を説明する堀江議長

5月30日（金）、熱海市、伊東市、下田市、伊豆の国市、伊豆市の5市で発足した「伊豆温泉所在5都市議会議長会」による議員研修会が、熱海市の起雲閣で行われ、伊豆市からは25名の議員が参加しました。

この議長会は、「伊豆の観光を活性化するため、近隣市で連携を取り合い、話し合っ場が必要」ということで、堀江議長が呼びかけて発足したものです。



野村稔氏の講演に聞き入る議員  
＝熱海市起雲閣で

研修会は、熱海市観光戦略室長による『伊豆の温泉と観光についてー熱海市観光基本計画』の講話と、全国都道府県議会議長会元議事調査部長の野村稔氏による『これからの地方議会の進む道』についての講演が行われました。

野村氏は、「議員は、選挙のときは特定の地域や政党を基盤とするが、当選後は住民主体を考える立場に変わる」など、議会運営にのぞむ議員の姿勢や、「今すぐできる議会改革」、「今後の制度改正で求められる事項」などについて、講演をされました。厳しい中に笑いもある内容に、大変有意義な研修となりました。

議会中継がホームページで  
視聴できるようになります

9月定例会より、本会議の中継（録画）が伊豆市のホームページで視聴できるようになります。詳細は、8月下旬頃、ホームページにてお知らせします。  
ご覧いただき  
ご感想を議会事務局までお寄せください。



### 9月定例会の予定

場所 天城湯ヶ島支所 議場  
時間 午前9時30分  
9月8日（月）議案上程  
提案理由説明

10日（水）一般質問  
11日（木）一般質問  
12日（金）議案質疑  
26日（金）委員長報告・質疑・討論・採決

※変更となる場合がありますので  
ご承知ください。  
（議会事務局 8512606）

## 編集後記

菊地市長が誕生し、初めての定例会です。所信表明を聞くために、多くの方が傍聴に来てくれました。有り難いことです。

議員も補選で4名が決まり、定数26名で6月定例会が開催されました。しかし、我々の任期もあとわずか。10月には市議会議員選挙があります。そこで、議会報の在り方について、真剣に検討すべきと考えています。

議会報は、市民の皆様にご覧いただき、理解してもらうために発行しているわけで、議員個人をアピールするためではないことを、再認識しなければならぬと思います。

『議会だより』の中の「市政を問う」における一般質問者名の記載がなくても、議会活動はお知らせでき、問題はないと思いますが、皆様はどのようにお考えでしょうか。

編集委員 飯田正志